



JR女川駅から海まで延びている「レンガみち」

## 津波被災地での復興まちづくり

### 宮城県女川町

2012年、URは復興まちづくりの担い手として、女川町とパートナーシップ協定を締結。女川中心部地区では、町全体を嵩上げし、国道沿いに商業・業務・水産加工業エリアを設け、また安全かつ早期に住宅が再建できるように高台移転に対応。

さらに、駅を中心とする中心部に都市の基本機能(行政・医療・福祉・交通・教育・商業)を集約し、町の中心へ人を呼び込むコンパクトシティへの再編を行いました。JR女川駅から女川湾に向かう「レンガみち」はまちのシンボル空間になっています。



地場産材を活用して建設された町営住宅

### 岩手県大槌町

大槌町から要請を受けたURが、災害公営住宅を建設して町へ譲渡した大ケロー丁目町営住宅は、浸水被害にあった町営住宅の土地を活用、いち早く建設に着手。地場産材を活用(木材の約6割に大槌町産を使用)し、周囲と調和する低層の和風

住宅を建設しました。入居者間のコミュニティ形成を図るため、敷地中央付近にコミュニティ広場を設け、既存市街地との接点となる敷地入口付近に集会所と広場を設置するなど、周辺住民も利用可能にして、地域住民間の交流にも配慮しました。



現地の被害状況を確認する職員

## 令和6年能登半島地震への対応

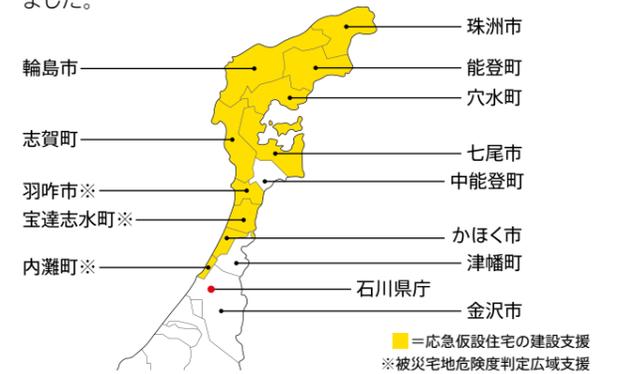
### 石川県 能登半島

#### 発災直後から状況等を確認、職員を派遣し、被災状況に応じた様々な支援を実施

能登半島地震に対して、迅速に初動体制を構築し、国や県等の関係機関と連携しながら被災地の支援を実施しています。発災直後から内閣府・国土交通省等と連絡を取り合い、被災状況等を確認。二次被害の防止や被災者の生活再建のため、石川県へ職員を派遣し、被災宅地危険度判定や住家被害認定の支援、応急仮設住宅の建設支援を実施するとともに、生活支援アドバイザーを配置したUR賃貸住宅を提供。さらに、被災市町からの要望に応じて、国土交通省等と連携し復興まちづくりのための計画策定等に関する、技術的支援を行っています。

#### 応急仮設住宅の建設支援について

能登半島地震において、被災した方が一時的に住まう応急仮設住宅の建設のため、URから建築、電気、機械、土木等の豊富な職種の技術系職員を石川県庁に派遣しました。具体的な業務内容としては、建設着手段階における実施体制や実施フロー、整備基準の構築等、マネジメントに重きを置いた支援を行いました。また、建設推進段階においては、配置計画図の確認、工事の進捗管理、完成検査等の技術的支援を実施しました。



自治体からの応援職員と中間検査を行う職員



応急仮設住宅の完成検査を行う職員